

1. 令和2年度を振り返って

令和2年度は、新型コロナウイルス感染禍、自治振興センターの利用や事業の中止を余儀なくされる等、極めて変化の激しい1年でした。

(1) その中で、当振興区は廃校リノベーション後の交流事業のスタート元年として地域の情報発信と地域外の人との交流に向け、以下のことを取組み一定の成果を得ることができました。

- ① ホームページのリニューアル … 発信情報の抽出では、八銚の宝物の多さに驚きました。
- ② ヒバゴン50周年資料の掲示 … ヒバゴンの故郷「八銚」の実感がわいてきました。
- ③ 八銚の歴史資料(年表)の掲示 … 約3万年前から近代までの八銚の歩みが分かりました。
- ④ 旧国鉄グッズ類や写真の展示 … 国鉄時代の賑わいを彷彿させ、国鉄は地域の誇りだった。
- ⑤ 特産品コーナーを設けました … 来訪者の目に止まるものを展示し充実していきます。
- ⑥ 会議室への座卓(20脚)の配備 … 講座等で利用してみても明らかに雰囲気は変化しました。

「オリジナル ホームページ (HP)」の一部をコピーし掲載します。
HPはインターネット (下記アドレス、右記QRコード) にアクセスしてご覧ください。
<https://www.yahokojichi.com/>



(2) 交流事業へ成長させていくことを目指した「生涯学習3事業」の企画を完了

- ① 「しいたけ栽培講座」 … (主管：高齢者部、代表：山野精荘さん)
- ② 「ガーデニング教室」 … (主管：女性部、生涯学習部、代表：小笠原フミエさん)
- ③ 「パークG&ウォーキング教室」 … (主管：生涯学習部、代表：定木文宜さん)

2月初旬以降、各部の来年度の事業計画検討に向けた会議で企画の最終確認を行いました。
いよいよ令和3年度から、この3事業に取り組むこととなります。

2. 役員会及びその関連事項の報告（役員会 令和3年1月29日）

(1) 「西城紫水高校」の近況報告

令和3年1月29日の役員会に先立ち、西城紫水高校の森多校長先生と主田事務局長から、同校の近況報告がありました。

同校の生徒は現在83名で、来年度32人以上の入学がなければ広島県基準の80人を切ってしまう（2年連続で80人を切った場合はその存続が危ぶまれる）とのことで、地元の人には是非とも入学してほしい旨の話がありました。

また、地域活性化に貢献するため、歩いて行ける範囲の事業所等へ出向いて業務を行っている等の報告がありました。

(2) 庄原市自治振興区連合会（市内22自治振興区で構成）から市長宛の要望書提出

令和3年1月27日に下記4項目の要望を木山市長へ提出しました。

- ①人口減少の取組みについて
- ②小中学校の適正規模・適正配置について
- ③未利用となる公共施設の有効活用に
- ④農業振興について
- ⑤高齢者等（交通弱者）に対する地域生活交通の確保及び支援について

(3) 令和2年度 市への要望に対する回答

令和3年2月12日に庄原市西城支所に提出していた要望事項（令和2年9月10日付提出の17項目）に対する回答がありました。

回答内容の記載は紙面の関係で省略しますが、今後その回答に沿ってフォローして参ります。

(4) 令和3年度に向けて、各部会での協議状況

本年度のふり返りと令和3年度の取組を協議するために、2月上旬から3月上旬にかけて各部の会議を行って参りました。令和3年度はこの協議内容を踏まえて活動することになりますが、その方向性の概要をお知らせします。

- ①コロナ禍ではあるが平時の想定で計画づくりを行い、事業の実施はコロナ情勢を見極め柔軟に対応（中止や縮小・延期等）する。
なお、「収穫祭（仮称）」は令和4年度に延期する。
- ②交流事業への育成を目指した「生涯学習3事業」については、企画案通りで取組む。
- ③高齢者福祉は生涯学習等を含め「健康の保持増進・健康寿命の伸長活動」をベースに置き、向う3軒両隣的な生活圏内での「支え合い活動」は、自治会・常会の協力を得て取組む。
また「西城暮らしと安心の会」には、庄原市社協との協議で八銚自治振興区として組織的に対応していくこととする。
- ④将来につながる青年部の「地域の将来を語り合う会」や「子供の1日体験学習」には力を入れて取組む。
- ⑤生涯学習を含め「楽しみながら」事業を行うことが大切。この点を来年度以降の事業に考慮していく。
- ⑥先進地視察等の貸切バス代を全額事業予算から拠出していたが、令和3年度から一部参加者負担も行う。
- ⑦交流事業は本年度から取組んでいる事業を継続して取組む。
広島経済大学には将来交流を視野に入れた「生涯学習3事業」の企画を提示し、意見を聞き対応する。



R3.3.6防災講座（座卓利用）

(5) やほこ交流センター・ヒバゴンビレッジ（交流施設）利用実績（単位:人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
生涯学習自主運営他		4	41	18		14	22	13	24		28		164
展示場等訪問者		5	13	12		11	33	11	1				86
合計		9	54	30		25	55	24	25		28		250

3. 予想外の反響…「ひばごんだより」第1号発行

地域外向け広報誌「ひばごんだより」第1号（令和3年3月1日発行）を、地域の皆様からご紹介いただいた地域外の人約110名の方に送付しました。

記事の内容は「自治振興区の紹介、自治振興センターの状況、湯崎県知事が来られたことの紹介、振興区の事業の紹介、八鉾村の歴史」等々ですが、送付後、多くの方からお礼の電話やメールが入っております。

「故郷を離れて約60年、懐かしく当時を思い出し、あの頃の自分に戻ってみたい」といったような感動的なメールを返信いただき、改めてこの広報誌を発行してよかったと思っております。

地域の皆様の小学校・中学校時代の同級生リスト等をご提供いただければ、更に増版して送りますので、自治振興区の事務局へご連絡ください。



この度発行の「ひばごんだより」は、3月19日の回覧で、皆様にご覧いただけるよう準備しています。

4. 地域マネージャー業務の進行状況

地域マネージャー業務の進行状況をお知らせします。

(1) 交流事業関係

- ① 旧国鉄グッズは移転場所の整備を終え、その展示移転は完了しました。
積雪等もあり1月～2月は展示場への来館者はありませんでしたが、今から暖かくなるにつれ多くの方が訪問くださることを願っております。
- ② 振興センターの玄関に「特産品コーナー」を設け、地域産品の展示販売を開始しました。
- ③ ホームページの定住情報を整備するために、八鉾にU-Iターンされた方のお話を聞かせていただいております。
- ④ 交流事業に育成する「生涯学習3事業」について、各部会に出席しその協議・調整を行いました。



玄関の「特産品コーナー」

(2) 野菜販売関係

- ① 12月まで、野菜の受注・調達・供給を行い、今年度の野菜供給は終わりました。
- ② 野菜供給シーズンを終え、来年度の野菜調達・供給計画づくりを行うために、農家を訪問し情報入手や調整を行っております。
農家の皆さんは協力的に対応してくださり、来年度は今年度よりも多い野菜供給ができるのではないかと楽しみにしております。

(3) 自主防災、防犯関係

3月6日には、講師を招いて防災講座と防犯講座を行いました。

- ① 「防災」は「自主防災組織の設立」に向けた講座で、今から組織づくりを目指す八鉾にとって有益でした。自主防災組織は自治会別に実態に即した形で展開されることとしておりますので、みなさんのご協力をお願いします。
- ② 「防犯」は、コンパクトな市販のカメラとスマートフォンを用いた「見守り…玄関等に取り付ければ防犯…」の仕組みづくりを学びました。この仕組みは、高齢者が多い八鉾の安心・安全に役立つものですので、みんなで普及させていきましょう。

5. 「地域のこの人」紹介・・・（八銚落合自治会）永橋則夫さん

今回は、備後落合駅でボランティアガイド、コンシェルジュ（総合世話人）をされている、西城町小鳥原にお住いの永橋則夫さんをご紹介します。

永橋さんは子供の頃からいつも駅で遊んでいたこともあり、旧国鉄で列車の機関士をしておられました。退職後のある日、子供さんとの会話で三江線廃止が話題にあがり、「この地に長年暮らしてきて、何かできることがあるのではないか」という一言がきっかけで「自分も鉄道に携わってきた中で、鉄道の良さを全国の方々に知っていただきたい」との思いから2017年4月29日からボランティアガイドを始められたそうです。

今まで日本全国（北海道から沖縄まで）から約8,000人を超える方々にガイドをされているとのこと。リピーターの方もたくさんおられます。「頑張ってください」とのお声もかけていただき、嬉しく、励みになっているそうです。外国から訪れた方には、スマホの翻訳アプリを使って工夫しながらガイドをされています。またガイドだけでなく「備後落合駅を訪れた方々に気持ち良く立ち寄り、帰っていただきたい」との思いから、駅周辺の草刈り、駅構内・駅舎の中、トイレの清掃等々をお一人でされており、私達にはとても真似できないほど頑張っておられます。

先月、ローカル線廃止に関するニュースを聞き、「木次線、芸備線が存続している間は、一人でも多くの方々に来ていただき、自分が元気なうちは鉄道の良さをPRしていきたい」と語られました。



ガイドをされている永橋則夫さん



備後落合駅・待合室

6. 生涯学習、その他の活動状況（1月15日以降）

（1）人権学習「より良い仲間づくりに向けて」開催

2月20日、西城自治振興区 平井事務局長を講師にお招きし、人権学習を行いました。

学習は参加者全員でBelive（ビリーブ）を合唱することに始まり、NHK「生きもの地球紀行」のエンディング・テーマ「この星に生まれて」の合唱で終わりました。

ビリーブの歌詞の「たとえば君が傷ついて くじけそうになった時は かならず僕がそばにいて ささえてあげるよその肩を…」この心が大切だとか「人を愛するには 地域を愛することから…」などのお話が印象に残りました。



R3.2.20人権講座

（2）「西城 暮らしと安心の会」への取組み

2月12日の庄原市社会福祉協議会の「西城暮らしと安心の会」の構成案の提示を受け、同会への参加は、八銚自治振興区の組織として参加することとしました。（従来は関係団体として参加していた）、3月下旬に開催される会議から組織として参加します。

各自治会の参加は、手上げ方式での参加（支え合い活動に関心の高い自治会）となっておりますが、超高齢化時代「支え合い活動」は避けてとおれませんので、各自治会においてはできるだけ参加ください。

具体的な開催日程等は、都度分かり次第、自治会長に連絡させていただきます。